

「土砂災害で失ったもの」

坂出中学校 2年 東滝 尚子 さん

毎年、家族そろってお盆とお正月になると父の実家である与島のおじいちゃん家に帰って来ました。だけど、今はもう帰ることもできません。何年か前、台風で私の家の前にある道に多量の水が、ものすごい勢いで流れているのを窓から見て、すごく怖かったのを今でも覚えています。その台風の暴風雨で与島にあった、おじいちゃんの家はなくなってしまいました。

お盆休みになると家族そろっておじいちゃん家に帰り、お墓参りをしたり、海では魚釣りやうきわを持って泳ぎに行ったりと、とても楽しかったです。夜は、お母さん達が野菜を切って、私達はその野菜をお父さん達に渡して、焼いてもらっていました。焼き上がった野菜や肉を「熱いね。出来立てはおいしいね。」と言い合いながら、みんなで食べていました。そして、私の一番の楽しみだったのが花火です。まだ幼い時だったので手持ち花火をしていましたが、カラフルな色が次々に出てきて、見ているだけで楽しくておもしろかったです。でも、ねずみ花火だけは好きではありませんでした。火をつけると、くるくるまわって追いかけてきそうだったからです。時には、イヤなことも悲しいこともあったけど思い出の詰まった家に、あの台風の暴風雨によって土砂がくずれ落ちてきて、家の中にまで入ってきました。どうにか、土砂を取り除けば、また帰れることもできると思いましたが、裏山の土砂が今度いつ来るかも分からない台風の雨風に耐えることができるか予想もつかず何度も何度も家族そろって話し合い相談をして悩み抜いた結果、悲しく残念ですが、思い出のたくさんある家を壊すことになりました。家を壊す前に、「長い間、ありがとうございました。」と心の中で言いました。おじいちゃん家を壊してすぐのお盆になった時に「与島に帰って過ごそう」と思った時、「もう、家はないんだと」みんなが思ってしまうほど、私達の中には与島で過ごした日々が忘れられません。その後、おじいちゃんは病気で亡くなりましたが、口ぐせのように、「与島の家に戻りたい」と何回も言っている姿を見て、おじいちゃんやおばあちゃんには私達以上に大切な家なのだなと思いました。

でも、私達よりも、もっと大変で苦しい人たちがいることを知って、悲しい気持ちばかりになっても仕方がないと思いました。

土砂災害で家がつぶれたり、やむなく壊したりしてしまうことがないように、山には、もっと木を植えたり裏山があるところには細かい網目のフェンスを何枚か重ねて立てて、おいたりするのも少しは土砂が家の中に入って来るのを防ぐことができるのではないかと思います。自然災害を人の手で防ぐのはできないと思いますが、少しでも被害を少なくすることは人の手だといくらでも、できると私は思いました。家がなくなったことは、いやでしたが、この体験を通して、どうすれば土砂災害での被害が少なくなるかということなどを考えることのできた出来事でした。